

(4)モデルコース案

小学校高学年1日遠足コース(平日) 【修復について詳しくなろう】

時間	内容(※40人想定)	実施場所
10:00 (30分)	①オリエンテーション(施設概要、注意事項、本日のプログラムについて説明)	複合棟 体験学習室
10:30 (30分)	②基礎講座「文化財の修復ってどうやるの」 1) 修復のビフォー&アフター 2) 修復のための調書づくり 3) 修復に必要な時報・修復材料を決める 4) 文化財修復の意義を解説	複合棟 体験学習室
11:00 (90分)	③修復作業の見学(見学ルーム含む) 4工房/20分	文化財修復・展示棟 各工房
12:30 (60分)	④昼食/自由時間 (雨天時 複合棟 交流ラウンジ等) 農村交流施設・伝統工芸施設	屋外体験ゾーン (雨天時 複合棟 交流ラウンジ等) 農村交流施設・伝統工芸施設
13:30 (60分)	⑤体験プログラム「文化財の修復にチャレンジ」 1) 土器の実測体験・修復技術者の見え方体験(分析装置等) 2) 修復のためのカルテ(調書)にまとめてみる 3) 修復体験(修復の一工程を体験) 4) 振り返り(修復の意義を解説)	複合棟 体験学習室
14:30 (20分)	休憩	
14:50 (40分)	⑥体験プログラム「アーティストになってみよう」 基礎講座や見学、修復の体験で得た知識を活かすことができる アート作品をAIRアーティストと共同制作 施設内で一定期間展示を行う	複合棟 AIRスタジオ
15:30 (20分)	⑦全体集合/振り返り	複合棟 体験学習室
15:50	帰校	

【修復を知る】

基礎講座や修復作業の見学を通して、修復の基礎と技術者の仕事について知る




特別公開イメージ



【修復を感じる】

実際に修復の一工程を体験してみたり、習得した知識を活かして新たな作品制作を行うことで修復を自分で試してみる



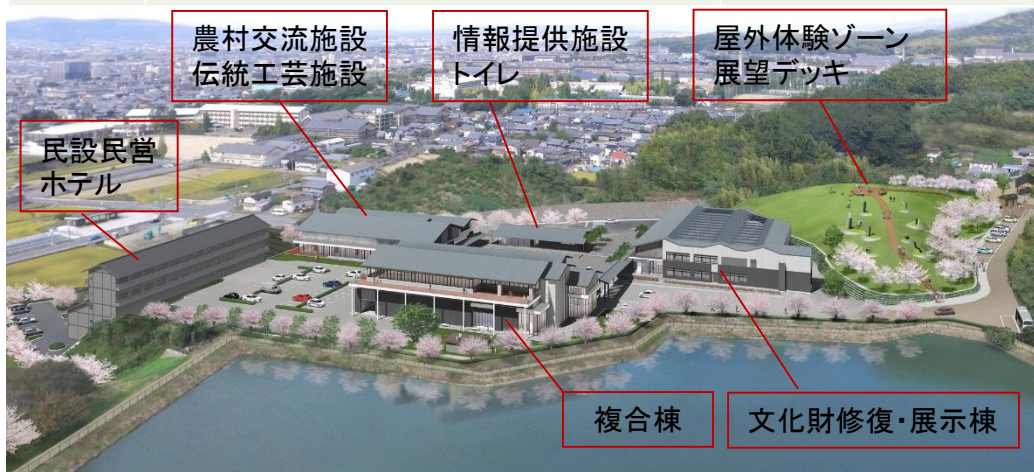
土器修復体験イメージ

(4)モデルコース案

宿泊観光客1泊2日周遊観光コース(土日)【ならの歴史芸術文化をたっぷり楽しむ】

時間	内容(1日目・土曜日)	実施場所
10:00 (5時間)	天理市「芸術文化エリア」で芸術文化に出会う 1) コフフンイベント、まちなかアート展 2) 天理本町通り商店街を食べ飲み歩き 3) 芸術通り沿いの文化施設、史跡等を楽しむ	天理駅前広場コフフン～ 本町通り商店街～ 芸術通り～当該施設へ
15:00 (1.5時間)	①「アーティストになってみよう」 1) アーティストの作品制作過程、手法を見学・体感 2) アーティストから作品制作のレクチャー 3) 作品制作にチャレンジ(共同制作など)	複合棟 AIRスタジオ
16:30 (1時間)	②「千年の響きを奏でよう」 1) 洗練された雅楽演奏を聴く 2) 楽師から演奏のレクチャー 3) 楽師と一緒に演奏チャレンジ	複合棟 ホール
17:30 (0.5時間)	③大和野の夕景をアーティストと楽しむ 1) “大和しうるはし”風景を楽しむ 2) アーティストならではのとらえ方で感じている	屋外体験ゾーン 展望デッキ
18:00 (2時間)	④アーティスト交流・懇親会 1) アーティストトーク 2) 制作した作品を前に交流・懇親会	複合棟 交流ラウンジ
20:00	⑤民設民営ホテル 宿泊	民設民営ホテル

時間	内容(2日目・日曜日)	実施場所
7:00 (3時間)	朝の「山の辺の道」散策、朝食 1) 石上神宮 2) 周辺レストランでモーニング朝食 3) 内山永久寺跡で往時を偲ぶ	当該施設(民設民営ホテル)～ 山の辺の道(芸術通り)～ 石上神宮～周辺レストラン ～内山永久寺跡～当該施設へ
10:00 (1時間)	⑥「さわって体感考古学」 ～橿原考古学研究所 休日特別プログラム～ 1) バックヤードを通り考古遺物整理が行われている 実際の部屋へ案内誘導 2) 実物資料(土器・瓦等)に触れながら解説で学ぶ 3) 遺物分析体験(デジタルマイクロスコプ)で 博物館でも見ることが出来ない細部を観察 4) 観察写真のプリントをプレゼント	文化財修復・展示棟 考古遺物整理室
11:00 (1時間)	⑦文化財修復作業、企画展の見学 1) 解説員による事前説明 往時(造像当初)と現在の姿が対比できるCG映像や、 仏像の構造が分かる模刻に触れる等体感型の解説 例:長岳寺阿彌陀三尊像 CGアニメーション ・往時の姿を再現し、現在の姿と順ごの替え ・ナレーション、テロップ等で分かりやすく構成 模刻(手) ・漆喰仕上げ(往時の再現) ・仕上げ剥離(層)をグラブレーションで再現 ・剥離者ハンズオン体感も想定 2) 文化財修復作業、企画展をガイド付きで見学	文化財修復・展示棟
		【修復工房見学ルーム】 【長岳寺阿彌陀三尊像】
12:00 (1時間)	⑧大和野菜の料理教室 農家レストランで昼食	農村交流施設 実習室 レストラン
13:00 (1時間)	⑨伝統工芸のワークショップ、実演販売	伝統工芸施設
14:00 (30分)	⑩旬のおすすめ情報をリサーチ	情報提供施設
14:30 (4時間)	「山の辺の道」散策、歴史巡り 1) 古墳、神社巡り 2) 果実狩り 3) 長岳寺 4) 天理市トレイルセンターで夕食	当該施設～山の辺の道～ 周辺観光農園～ 周辺古墳、神社～ 長岳寺～ 天理市トレイルセンター～ (黒塚古墳)～柳本駅



(4)大学連携について

○大学との連携により、以下の効果に期待

- ・若い世代に文化資源の価値を伝え、次世代を担う人材の育成
- ・学生が当施設での活動を通して新たな交流の創出や情報発信を行うことで、若者にとっても魅力的で集い自ら関わる施設とする
- ・教育環境の向上や周辺地域の活性化

【天理大学との連携】

- ①歴史学・考古分野や国際関係の学部を有する
- ②国内外の極めて貴重な歴史文化資源を多数有する
- ③本施設から最も近い



奈良県と天理大学の連携協定を締結

【連携が想定される項目（案）】

○授業のカリキュラム化

当施設での学びを人間学部、文学部、国際学部で授業科目化し、単位の取得を可能とする。

①講義の実施

- ・講義→演習→実習の演習と実習の部分を当施設で行う。
（例）文学部歴史文化学科：文化資源演習
国際学部日本研究コース：歴史文化芸術研究 等
- ・当施設の機能やテーマをもとに各分野の視点からの講義

②研究

地域課題の解決等に向けた研究の実施

○文化活動の発表の場

天理大学は雅楽部や創作ダンス部をはじめとする全国屈指の文化系クラブを有する。

当施設内のホール(300人)をはじめとするスペースを活用し、文化活動の発表を行う日を設置。

○附属施設との連携

貴重な資料を多数有する図書館や参考館との連携展示開催など検討

☆講義で学んだことを実践的に活かす場としての施設

- ・文化財修復公開の解説員
- ・ワークショップの企画・運営
- ・外国人観光客や国際的な研修会の対応
（館内案内や通訳）

【今後の展開】

- ・連携協定に基づく展開内容の実施に向けた調整
（引き続き、天理大学プロジェクトチームとの協議を定期的実施）
- ・天理大学との連携をモデルケースに他の県内大学との連携も推進
（奈良県大学連合など）
- ・全国芸術系大学コンソーシアムとの連携

(5) (仮称)奈良県国際芸術家村整備スケジュール(案)について

○整備スケジュール概要

2016年度 基本計画策定

2017年度 造成設計・着手、建築設計、運営体制の構築検討などを実施

2018年度 建築工事着手、指定管理事業者公募条件検討、民間宿泊事業者公募、天理大学との連携協定

2019年度 各種工事の実施、指定管理事業者の公募・選定、プログラム詳細作成、大学連携・郷土教育の推進

⇒2021年度中の
オープンを目指す

事項	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
指定管理	指定管理事業者 公募条件検討	募集要項 確定(予定)	設置条例 議会上程 (予定)	指定管理事業者 公募・決定	
愛称募集	行政組織名の決定	広報・周知・募集	庁内検討 選定審査会 決定	事業者オープン準備	
ソフト検討	年間事業計画案の作成 年間事業費概算算出	プログラム詳細作成・年間事業費積算算出 事業推進体制について検討	実施体制の確立 プロモーション展開	オープン	
	天理大学との連携協定締結	天理大学との連携協定に基づく展開内容の具現化・他大学等連携の推進	展開内容の実施に向けて調整		
	郷土教育等での活用に向けた検討	リーフレット作成	校長会等 での周知		現地説明会 等実施
施設建設 関係		建築工事等			
		展示等設計・製作・搬入			
ホテル誘致	民間宿泊事業者 公募条件検討	民間宿泊 事業者 公募	ホテル整備・運営準備・開業		
	優先交渉事業者決定⇒●				

天理市アーティスト・イン・レジデンス モデル事業の取組状況

(仮称)奈良県国際芸術家村のオープンを見据えた取組として、天理駅周辺と芸術家村とを結ぶ芸術文化エリアにおいて、主要動線としての芸術通りの構築や作品制作や展示などにより芸術文化に触れる機会の設定など、芸術文化を巡る回遊性を高める「芸術文化エリア構想」を進めます。

● アーティスト・イン・レジデンス モデル事業 — “芸術文化に出会える街”を目指して —

○天理アーティスト・イン・レジデンス モデル事業実行委員会

作家受入業務などを担う運営主体
第1回会議を8/3に開催

【委員】天理大学副学長、市芸術協会長、商店街組合理事長、
ゲストハウスマネージャー等



委員自身が主体的に情報発信(SNS含む)



パチンコ店を改修して完成した
モノゲストハウスがAIR滞在拠点

○招聘アーティストによる制作活動

ペ・ヨンウク氏: 長期滞在50日間 9/16(日)～11/4(日) アーティスト・イン・レジデンス(AIR)滞在拠点であるモノゲストハウスに滞在。
横山大介氏: 短期滞在(通い型) 8/18(土)～11/4(日)のうち週末をメインに大阪から天理に通う。ゲストハウスに宿泊することも。

活動状況



AIRアーティストによるグループ展「SITES」(12月1日～12月23日)



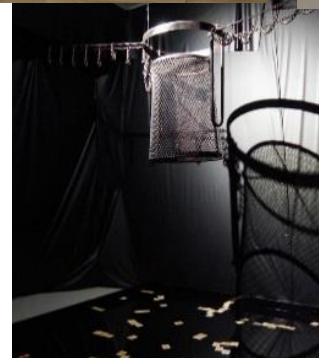
交流



姉妹都市の関連で
韓国語講座にゲスト講師としてペ氏出演



天理市展で市内芸術協会会員や来場者と交流。
その場でインタビューが始まるシーンも。



天理市アーティスト・イン・レジデンス モデル事業の取組状況

● 展示・交流のフィールド「Art-Space TARN」の開設

- 商店街空き店舗を改装。市も補助して民間アートスペースへ（約60㎡）
- ・作品制作の場 ・作品展示の場
- ・アーティストと地域や来訪者との交流の場（展示解説、ワークショップなど）

12月1日オープン



市が補助し改修
6年度間賃借



アートスペース「TARN」



オープニングセレモニー

文化系情報誌掲載、アーティストによるSNS
発信などを駆使し、オープン当日は
県外や国外からも来客



※ロゴマーク
 いろいろな角度から天理を見て、
 たくさんの事を感じてもらいたい。
 その想いを、上下左右から文字を
 読めるようにすることで表現。
 「AIR」のキーワードも内包。



アーティストトーク&レセプション



アーティストによるワークショップ



ペ氏：思い出のモノに隠れたストーリー

参加者が持ち寄った思い出の品にまつわる記憶を共有し木片に記す。それを水面に浮かべ、他者の記憶と出会うことで新しい物語を構築する。



横山氏：「インスタントカメラ」でポートレート

町に出かけ、インスタントのフィルムカメラで偶然性を楽しみながらポートレート撮影。その後には現像写真を相互に講評して交流。

今後の活用・展開

1/11～1/25：彫刻家
安藤榮作・長谷川浩子
二人展

2018.1.11～25 11:00-17:00
休日・1月15日(土)・1月19日(金) 会場/Art-Space TARN 主催/天理市
TARN
Art-Space TARN



安藤榮作・長谷川浩子 — 二人展

- 1/29～2/10 天理市芸術協会理事 上林一 展 ～時空～
- 2/14～2/26 天理市芸術協会会長 川畑太 油絵展 ～息のする方向～
- 2/24 特別トークイベント「アーティスト・イン・レジデンスの可能性をさぐる」
- 3/1 ～3/10 てんりアートストリート2018 参加作品展

➡ 来年度以降も継続的にアート拠点として活用